

休日当番医など (3月1日～4月15日)

地域医療課 ☎27-8572

休日 当番医

※症状によっては、専門外となる場合もありますので、不明な場合は、当番医療機関へお問い合わせください。

3月1日(日)	中央台たなか眼科	9時～14時	中央台 高久	29-1722
	山口医院	9時～17時	平 作 町	24-1811
	中村病院		小名浜 大原	53-3141
	なこそ病院		勿 来 町	65-7755
常磐病院	常磐上湯長谷町	81-5522		
8日(日)	須田医院	8時30分～12時	小 島 町	27-6060
	中山クリニック	9時～17時	小名浜 西町	73-1112
	榎田病院		植 田 町	63-3202
いわき湯本病院	常磐湯本町	42-3188		
15日(日)	山口医院	9時～17時	平 作 町	24-1811
	磐城中央病院		小名浜南富岡	53-3511
	こうじま慈愛病院		錦 町	63-5141
	根本内科胃腸科医院		常磐湯本町	43-4100
20日(金)	須田医院	8時30分～12時	小 島 町	27-6060
	おざかクリニック	9時～17時	泉 町 滝 尻	56-8777
	矢野内科胃腸科		東 田 町	62-3262
いわき草木台総合クリニック	草 木 台	28-1145		
22日(日)	須田医院	8時30分～12時	小 島 町	27-6060
	中山医院	9時～17時	中 之 作	55-8141
	呉羽総合病院		錦 町	63-2181
	比佐医院		常磐湯本町	43-2313
29日(日)	須田医院	8時30分～12時	小 島 町	27-6060
	坂本整形外科医院	9時～17時	平 豊 間	38-2830
	かしま病院		鹿島町下蔵持	58-8010
	矢吹病院		佐 糠 町	63-1818
かとう内科クリニック	常磐西郷町		72-0072	
4月5日(日)	クリニック阿部	9時～17時	泉 町 滝 尻	85-5801
	榎田病院		植 田 町	63-3202
	常磐病院		常磐上湯長谷町	81-5522
12日(日)	なおハートクリニック	9時～17時	小名浜 定西	54-1262
	こうじま慈愛病院		錦 町	63-5141
	いわき湯本病院		常磐湯本町	42-3188

日曜 小児専門当番医 9時～12時

3月	1日	福田小児科医院	平下 荒川	22-4272
	8日	おおはらこどもクリニック	東 田 町	63-0001
	15日	こどもクリニックすずき	泉 町	56-6336
	22日	あおぞらキッズクリニック	小名浜 大原	85-5439
4月	5日	相原小児科医院	内郷 御殿町	26-5551
	12日	やまぎわこどもクリニック	郷 ケ 丘	28-8686

※変更となる場合がありますので、事前に当番医療機関、または消防署(☎23-0119)へお問い合わせください。市ホームページでも公開していますので、ご覧ください。

休日 診療協力医 ※休日当番医の場合は、左表に記載しています。

【内科】
須田医院 (小島町)
8時30分～12時 ☎27-6060

3月 15日

【泌尿器科】
常磐病院 (常磐上湯長谷町)
9時～15時 ☎81-5522

3月 8日、15日、20日、22日、29日
4月 12日

【眼科】
中央台たなか眼科 (中央台高久)
9時～14時 ☎29-1722

3月 8日、15日、22日、29日

※この他にも休日に診療している医療機関がありますので、あらかじめかかりつけの医療機関などで確かめてください。

※4月の休日当番医(平地区)と診療協力医については、3月下旬ごろ市ホームページに公開しますので、ご覧ください。

休日夜間急病診療所【内科・小児科】
総合保健福祉センター隣 ☎27-1208
平日：20時～23時 土曜日：20時～翌朝7時
日曜日：14時～18時、19時～23時
祝日：9時～13時、14時～18時、19時～23時

休日救急歯科診療所
総合保健福祉センター内 ☎27-8620
日曜日、祝日：9時～12時、13時～16時(受付終了時間15時30分)

県こども救急電話相談 ☎024-521-3790または#8000(プッシュ回線・携帯電話) 毎日 19時～翌朝8時

○休日夜間救急電話相談・急病診療(往診)【内科・小児科等】

いわきFCクリニック(常磐上湯長谷町)
電話受付 13時～翌日3時 ☎88-7706

3月・4月 土・日曜日、祝日

※事前に電話連絡が必要です。

●かかりつけ医を持ちましよう

●レントゲン撮影せよめまごう

●救急車は適正に利用しよう

かかりつけ医の紹介・相談やこれまでの掲載内容は、医師会事務局へ(ホームページURL) <http://www.iwaki.or.jp/>

市民の

健康教室



提供・問い合わせ
(一社)いわき市医師会
☎38-4201

健康教室

多血小板血漿(PRP)療法

PRP療法とは、自分の血液中に含まれる血小板の成長因子、サイトカインなどが持つ組織修復能力を利用し、治療力を高める再生医療です。元々皮膚科における難治性潰瘍や、歯科における歯肉再生促進などに使われてきました。海外では、二〇〇〇年ごろからプロスポーツ選手のけがの治療などに使われ、数年遅れて日本でもスポーツによる肘や膝の痛み、腱や筋肉の損傷などで、従来の治療が効かない症例に対する新しい治療法として注目されてきました。昨年、大リーガーの大谷選手が、右肘の靭帯損傷に対して同療法を行ったことでも話題になりました。

PRP療法は、患者から血液を採取してPRPを作成し、患部に注射します。採血や注射などの手技は簡単で、体への負担が小さく、患者の血液をもとに作成しているため、アレルギー反応も極めて少ないと考えられています。現在、実際に治療が行われている分野は、手・足・肩・肘・股関節の変形性関節症や、靭帯・肩腱板・膝半月板損傷、肉離れ、テニス肘、アキレス腱炎、滑膜ひだ障害、四肢関節内の軟骨・靭帯損傷などのスポーツ障害です。PRP療法は従来の投薬や注射などの保存的治療で効果がなく、医師に手術を提案されたが決心できない場合などに残された効果的な治療と位置付けられ、究極の保存的治療と称されることもあります。現在は保険診療は認められておらず、自由診療で行われていますが、自分の血液を使った安全性の高い再生医療と言えます。また、二〇一四年に施行された再生医療法により、医療機関は厚生労働省への届け出が義務付けられているため、一定水準の安全性が確保されています。

(PRP)療法

放射線科医療録⑫

けんこうQ&A

血液内科⑫

大腸がんのMRI診断
大腸がんは、どの画像検査でも大腸の内腔を空にするための前処置が必要になります。この煩雑な処置が大腸がん検査の普及を妨げています。これに対して、MRIの拡散強調画像では、前処置がなくてもガスを含んだ腸管が、空洞のように抜け見え見えます。
大腸がんは腫瘍の大きさによる病期分類はありますが、腫瘍の大きさが五から十ミリメートルは取った方がよい、十ミリメートル超は取るべきであると言われていたため、十ミリメートルの大きさの腫瘍がある

大腸がんを抽出できれば、治療成績のさらなる向上が期待できます。MRIでは、腸管が内容物を含んで空洞のように抜けていない部分でも、腫瘍はその信号と形状から、周囲の正常組織および腸管の内容物と区別することが可能であり、MRIは大腸がんの検出に有用な検査法と言えます。
大腸がんの危険因子は、牛、豚などの赤肉やハム、ソーセイジなどの加工肉の過剰摂取のほか、飲酒、喫煙、肥満などがあります。心当たりのある方は、二年に一回は大腸がんの検査を受けてください。

骨髄異形成症候群(MDS)

Q どのような病気ですか?
A 白血球や赤血球、血小板などの血球は、骨髄で作られています。MDSは骨髄中に存在する血球の遺伝子に傷が付いた結果、不良品の血球が作られてしまう病気です。その不良品の血球は血液中に放出されず、骨髄の中で壊れるので、採血上は白血球数が減少します。MDSは何年もかけて徐々に進行する病気です。白血球・赤血球・血小板数が大きく減少した場合には、発熱や息切れ、出血といった症状が現れるほか、最終的に白血病を発症し、命が奪われる場合もあります。

発見される場合もありますが、健康診断やかかりつけ医で定期的に採血している方は、血球数が少ない場合にMDSの疑いがあります。血液内科で骨髄穿刺検査を行うことで診断が確定します。
治療法を教えてください。
A 骨髄移植は、完治が見込める唯一の治療法ですが、患者の体への負担が大きいので、一般的には七十歳以下の患者に対して実施されます。アザシチジンという注射薬は、MDSを完治しないまでも、生存できる期間を倍に延ばすことが示されています。赤血球数が大きく減少した場合は、血小板数が少なく出血症状がある場合は輸血を行います。輸血の効果は一時的なもので、完治するまでは、輸血を続けなくてはなりません。